

# 後援会だより



後援会会長  
富田 康男

## 卒業を祝して



学類長  
入野 修

本学類の最初の卒業生となる皆さんに心からお祝い申し上げます。また、これまでの皆さんのご努力は勿論ですが、暖かい愛情を持って育み、見守ってこられた保護者の皆様や本学類の設立に並々ならぬご尽力を頂いた入野学類長始め、教育に情熱を持ってご指導頂いた諸先生方、さらには地域の多くの方のご支援のお陰であることを決して忘れてはなりません。

さて現在、昨年の米国金融危機を引き金とした百年に一度という世界同時大不況の真っ只中にありますが、卒業生の皆さんは、まさにこの暴風雨の荒波の中に漕ぎ出していく小さな一漕のボートであります。そこで、私は『MMK (負けるな!めげるな!くじけるな!)』とエールを送ります。私の尊敬する“マザーテレサ”の言葉に、

- 『人生は、神秘。そのことを知りなさい。
- 人生は、悲しみ。そのことを乗り越えなさい。
- 人生は、冒険。大胆に挑みなさい。
- 人生は、幸運。その幸運を本物にしなさい。
- 人生は、人生。人生に立ち向かいなさい。』という名言があります。(紙面の都合により抜粋)

彼女は、死に直面している身寄りの無い人々に優しく、最後を見届け、この仕事を、世の中に役立つ価値ある『天職』として生涯を捧げたのです。皆さんにとっても、本学類での4年間の学びで興味を持った分野の職業や研究にこれからも精一杯打ち込み、世の中に役に立つ価値あることであると真に思えたら、それは諸君にとって、『天職』を手に入れたということでもあります。どうぞ、卒業生の皆さん、福大で学ばれたマインドを常に忘れず、どんな人生の苦難に対してもMMK (「モテテ、モテテ困る」ではありません) M負けるな! Mめげるな! Kくじけるな! で乗り越え、新しい創造力を発揮し、明るい将来への『天職』を全うしようではありませんか! 最後になりましたが、後援会に頂戴致しましたご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

ご卒業 心よりお祝いを申し上げます。

学類に新入生を迎えたのが4年前。そして、今春学類として最初の卒業生を送り出します。感無量です。本学類で人・産業・環境の共生をシステム科学の視点で捉える思考力と実践力を身につけた1期生が巣立っていきます。しかし、変化の激しい時代、実社会では教育界、産業界、経済界とも大変に厳しい状況にあります。どのような心構えで実社会に飛び立ち、難しい問題に挑戦していくのだろうか。期待と不安を持って受け止めています。個々人がこれから直面する新しい社会の中で出会う課題は決して単純に解決できる問題ばかりではありません。応用問題、しかも初めて体験する問題が君たちの前に立ちだかることでしょう。そんなとき、本学類で身につけた思考力で果敢に立ち向かって欲しいと願っています。私は折りに触れ、「やればできる」(Yes, you can.)を言い続けてきました。どうか、難しい問題にもひるむことなく、「やればできる」と挑んで下さい。そうすれば、難問もきっと解決できることでしょう。

私は今年の手紙初めで、「実夢現」を一文字とした字を書きました。新しい門出をする君たち一人ひとりが自分の夢を抱いて、自分のための自分の人生を楽しんで生き抜いて欲しいと願った私の造語(造文字)です。これからの新しい生活では、苦しいことばかりではなく、沢山の楽しいことにも出会うことでしょう。自分を信じて前進して欲しい。そして、実社会の荒波で疲れたら、遠慮なく、遊び学んだ大学に遊びに来て下さい。卒業後も大学と関わることは、人生を賢く生きるための術です。

君たちの新しい人生に幸多かれと心より祈ります。



## 平成20年度 卒業生の進路について

### 共生システム理工学類就職支援委員会

第一期生の就職活動は、団塊の世代の退職による技術者不足と、歴史的な好景気という追い風を受けてスタートしまし

た。福島県待望の理工系ということもあり、県内に拠点を持つ多くの企業から求人が寄せられ、全国から多くの人事担当者が来学されました。理工学類生限定の求人も多く、対応に忙しかった就職支援グループと就職支援委員は、嬉しい悲鳴を上げていました。

平成21年3月に卒業見込の約160名のうち、本学または他の大学の大学院に進学内定しているものが43名となりました。就職先はバラエティーに富んでいて、文理融合型の学類の特徴を反映しています。業種別では、情報通信業・製造業・サービス業・卸小売業・金融業が就職先上位5業種となりました。15名が公務員として就職予定であり、難関の試験を突破した学生が少なからずいたことを、たいへん嬉しく思っています。2月の時点で進路が未定である学生は、片手で数えるほどであり、他学類や他大学と比べると極めて少数です。早い時期に希望の会社からの内定を得る学生も多く、就職活動は順調であったと判断しています。新設された学類を志願した学生諸君のチャレンジ精神が社会から高く評価されたことに加え、御家族や地域の方々の温かい御支援を受け続けてきたおかげと、心より感謝致しております。

景気が急速に悪化し、暗いニュースが連日流れる中、3年生が就職活動を開始しています。本学でも、大学主催の合同企業説明会や学内での就職セミナーなど、様々な情報提供を行っています。来年度は求人を絞るといった情報が一般的には流れていますが、福島大学に寄せられる求人の数は減少してはおりません。「景気が悪い状況であるからこそ、次の時代を担える人材が欲しい。」と、人事担当者は口をそろえています。この期待に応えられるような人材を育てていかななくてはと、気を引き締めております。



平成21年2月 福島大学 合同企業説明会  
(コラッセふくしま)

## インターンシップ体験記

### インターンシップを体験して

人間支援システム専攻

2年 梅 沢 竜 太

今回「郡山市ふれあい科学館」でのインターンシップを体験してみて、多くを学ぶことができた。一番感じたのがお客様に対する接客であった。それまでもアルバイトをしていたので接客というものにはそれほど抵抗感はなかったのだが、アルバイトがガソリンスタンドという業種であったために今回の実習先では接客がとても難しく感じた。また科学館の性質上子供のお客様が多かったので子供に対する接し方を考える機会になった。それまで自分はどちらかという子供が苦手な方であったために最初は子供の多さに不安があったが実習を通して子供とどのように接すればいいのか、そしてどのように扱えばいいのかを学ぶことができた。またそれに関連して様々な親がいるということも学べた。モンスターペアレントが学校で問題になっているという話は聞いたことがあったが実際に研修中にもそのような親と接する機会があったために実際にこういうことが存在するということが学べた。今回のインターンシップでの研修によって今後の学生生活、進路に対する考えであるが自分は将来の進路を公務員で考えているので今回のふれあい科学館のオフィス内の雰囲気は公務員になるにあたっての参考になると感じた。



人間支援システム専攻

2年 滝 沢 桃 花

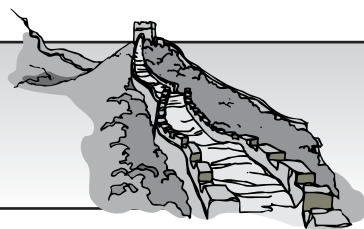
会社に行ってまず感じたことは、会社の方々は向上心を持ち常に努力している人たちがばかりでした。私達大学生より日々勉強し、成長しているのではないかと思います。私は実習終了後、会社で出会った方々を見習い、いつまでも努力し続けたいと思うようになりました。たった5日間とは思えないほど多くのことを学び、多くの人と出会いました。毎日会社に行くたびに知っている人が増えていき、話しかけてもらい嬉しかったです。会社は年代や性格も違う様々な人がいて成り立っています。何をやるにも、会社の中やお客さんなど常に”人”と関わるのが仕事というものです。コミュニケーション能力の大切さを感じました。そして、相手を思いやる気持ちや、相手の立場を考えることも大切だと思います。私が楽しく実習ができたのは会社の方々の温かい心に励まされていたからだと思います。毎日が充実し、私にとって忘れられない5日間になりました。参加して本当によかったです。学生は学校という世界から出ない限り、学校しか知りません。その中で急に就職を考えたり就職活動をしたりしようとしても難しいと思います。ぜひ多くの学生にインターンシップに参加して欲しいと思っています。



## 海外演習報告

中華人民共和国、上海・大連

平成20年12月11日～12月17日



指導教員：樋口 良之

海外演習には、学類の専攻ごとに企画して実施するプログラムと個別に学生と教員が相談して企画する個別認定プログラムがあります。今回は、生産物流、交通物流について、佐久間さんが3年生の前期から取り組んできた研究成果発表と議論、視察を行う個別認定で行いました。

上海の情報通信機器製造企業などでは、授業で学んだ時間研究などを駆使して、生産ラインの分析を行いました。会社をあげての社長のお誕生会に参加したり、不景気が足音をたてている中での経営判断を垣間見たり、佐久間さんはたいへんに感激していました。

大連理工大学では、佐久間さんが取り組んできた福島の花見山公園の観光バス渋滞の解析について議論を重ねました。じつは、佐久間さんは、2ヶ月前に大連理工大学を訪問していました。2ヶ月前の佐久間さんは、研究をしながら、中国での発表に向け、かなりの発表練習を重ねていました。しかし、走りながら、まとめることは、かなりの無理があります。大連理工大学などの教授陣、大学院生の前で、練習してきたことは、恐ろしいほどに実を結びませんでした。そのときの落ち込みはたいへんなものでした。このときの反省は活かされ、その後に行われた国内学会での発表は大成功でした。

そして、再び、佐久間さんは、この大連理工大学に来たのです。今回の演習では、ちょっと中国語も駆使し、大学院生との議論、研究交流にも余裕があります。私は、この海外演習で成長した佐久間さんを見ることができ、とてもうれしかったです。

産業システム工学専攻：佐久間 勇 行



私は今回の海外演習で中国を訪問しました。私が海外演習に参加した目的は、私は将来世界で働ける人材になることが夢であり、そのためにビジネスや工場など、海外の様々なものを実際に見て勉強したいと思ったからです。今回の演習では、部品組立工場を訪問して生産に関する演習、IT企業のソフトウェア開発現場を視察、大連理工大学における研究発表や議論など、ここでは伝えきれないほど充実した日々を過ごすことができました。中国は日本と文化や性格などが違いますから、ニュースなどで短絡的にももしろい部分のみ報道されがちですが、生産やビジネスにも中国固有の文化がありとても興味深く感じました。海外演習全体を通して、一番大切だと感じたのは積極的な姿勢で取り組むことです。人前で話すのはあまり得意ではなかったのですが、演習で何度も研究発表の機会があったり、様々な方と談話させていただいたり、それらの中で成長できたことを感じています。この経験をバネに夢に向かい、何ごとにも積極的に姿勢で取り組んで行きたいです。



## 教育G Pの取り組み

共生システム理工学類 准教授：山口 克彦

共生システム理工学類から申請していた「科学的理解の深化を促す地域連携型理工教育」事業が、文部科学省の平成20年度大学改革推進等補助金（教育G P）として採択されました。本事業は理工学類の学生に、科学館でも利用してもらえる教材作りを目指した活動を行わせることで、学生の科学技術への理解と地域の子どもたちの科学的興味をともに向上させようとする試みです。科学館として、サイエンスパーク（郡山市）、ムシテックワールド（須賀川市）、磐梯噴火記念館（北塩原村）及びこむこむ（福島市）と連携しながら進めております。毎年1,700万円程度の予算を投入して、3年間継続されます。対象は平成19年度および20年度に入学した理工学類の学生で、2年の後期から3年の前期にかけて履修するグループ活動（プロジェクト学習）の一環として参加することができます。

平成20年度は80名ほどの学生が24のグループを作って、昨年11月から活動しています。2月18日には中間発表会を行い、ポス

ターと試作品を提示しました。科学館スタッフなど外部の方から「子どもに興味を持ってもらうためには見せ方をもっと工夫しないとイケない」など率直なコメントをそれぞれのグループがもらうことができました。今後は上記の科学館やオープンキャンパスなどで実際に実演を行うための準備を進めることになります。単なる研究発表とは違い、自分がわかるだけでなく、子ども相手に「伝える」ための方策をいろいろと考えることで、最近重要視されているサイエンスコミュニケーションの技術を実践から学びとってくれることを期待しています。後援会のみなさまにも是非応援していただければと願っています。下記の福島大学のホームページに概要やこれまでの経緯などが載っていますので、御一読いただき興味を持っていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

福島大学教育G Pのサイト

<http://www.fukushima-u.ac.jp/gp/index.html>



## 平成20年度学業優秀者

4年

伊藤 光輝	木村 直
安沢 孝太	東条 聡子
加藤 俊一郎	渡部 康実
畠山 香里	冨塚 みさき
三浦 弘貴	冨田 優
福田 亜由美	荒井 隆之
美野田 友樹	木村 慶一郎
鈴木 孝	

共生システム理工学類後援会  
平成21年度総会のお知らせ

下記のとおり後援会総会を開催いたします。

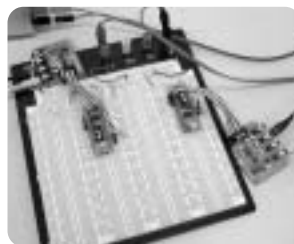
平成21年4月6日(月)  
午前10:50~12:00  
福島大学L3教室

## 後援会の主な事業内容

4/1~3/31	課外・教育研究活動助成 グループ交流会助成 資格/検定受験料補助 学類運営補助
4/7	定期総会
5/28	学類交流会 学業優秀者表彰 1~3年生
8/3	オープンキャンパス
9/30	後援会だより7号発行
10/10	インターンシップ報告会
10/29~11/3	福大祭
11/1	親のための就職セミナー
10/1~3/31	専攻交流会
12/11~12/17	海外演習
3/25	学業優秀者表彰 4年生
3/25	後援会だより8号発行
3/28	後援会理事会

## 編集後記

福島大学共生システム理工学類では、この春、初めての卒業生を送り出します。彼らは、手本となる先輩を持たず、自分たちの足跡がそのまま理工学類の伝統の始まりとなるのだという自覚の下、勉学やサークル活動に励んできた学生たちです。理工学類後援会では、そんな一期生と後輩である在学生の姿を、「後援会だより」を通じてお伝えしてきました。また、学年が上がるにつれ増える新しい需要に対応するため、後援会では様々な事業を試みて参りました。今後も、在学生のより良い学生生活への助けとなるよう事業を展開していく所存ですので、今までと変わらぬ温かいご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ご意見・ご要望は下記共生システム理工学類後援会まで  
事務局 〒960-1296 福島市金谷川1  
福島大学理工学群共生システム理工学類内  
TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPでさまざまな教育・研究活動をご覧ください。  
<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>